特別支援教育推進のための学校と専門家の効果的な連携

－専門家配置から５年間の活用実践の結果報告と検証－

企画者　齊藤宇開（たすく株式会社）・肥後祥治（鹿児島大学）
司会者　渡邊倫（TASUC 株式会社）
話題提供者　吉田真理子（東京都立八王子特別支援学校）
丹野哲也（文部科学省）
松井 匠（たすく株式会社）
指定討論者　渡部匡隆（横浜国立大学）

KEY WORDS：　外部専門員，アセスメント，授業の評価・改善

【企画趣旨：齊藤宇開・肥後祥治】

特別支援教育の推進のための方策の一つに，外部専門家の活用がある。学校と専門家の効果的な連携のためには，1)個に応じた指導と支援をさらに充実させることを基本的な方向とする「理念」を明示し，共通理解が図られていること，2)推進のトップである学校長が外部専門家と効果的に連携するためのマネジメント力を発揮していること，3)外部専門家が学校や教師の視点を大切にした上で，専門家としての知見を伝えること，といった内容が考えられる。

本シンポジウムは，2013 年に本学会シンポジウムで発表した「特別支援教育推進のための外部専門家との協働- 知的障害特別支援学校における全ての児童生徒へのアセスメント実施から -」の続編であるが，今年度からは，継続して個に応じた特別支援教育の体制構築のための，学校と専門家の効果的な連携を検討する予定である。今回のシンポジウムでは，先駆的なモデルとして東京都が特別支援教育推進計画第3次実施計画に基づき行っている知的障害特別支援学校外部支援員制度を中心に，専門家活用実践の効果の検証を具体的な事例報告をとおして行い，協議することを目的とする。

【話題提供の趣旨：吉田真理子】

１．外部専門家と効果的に連携するためのマネジメント

本校では1500時間程度を10数名の外部専門家と協働している。その多くを児童生徒理解のためのアセスメントとｹｰｽ･ｶﾝﾌｧﾚﾝｽに活用している。学校側の素地として，適切な実態把握による根拠に基づいた指導が定着していること，教師が専門家から何を知りたいのか等，目的意識を持っていることが大切である。協働するにあたっては，専門家を活用する組織が必要で，本校ではﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾁｰﾑを中心に各学年主任が子どものニーズに合う専門家をマッチングさせてスケジュール調整を行っている。学校のニーズに合わせて外部専門家を活用するため，校内研究テーマとも関連付け，個々の教師の得た知識を全体のものにして指導の質を向上させている。教師もまた一つの専門家として本来の協働を実現し，様々な課題にチームアプローチが出来るよう発展させたい。

【話題提供の要旨：丹野哲也】

２．我が国における外部専門員活用の施策と期待

中央教育審議会答申（平成 27 年 12 月）では，学校教育において複雑化・多様化した課題を解決していくためには，学校の組織としての在り方や様々な校務などを見直し「チームとしての学校」を構築していくことの重要性が指摘されている。特に，障害により特別な支援を必要とする子供に対して支援を行うに当たり，教員のみならず，様々な専門家との連携が必要である。文部科学省では，平成 28 年度より「特別支援教育専門家等配置事業」を実施している。学校や教員が様々な分野の専門家や専門機関等と連携・分担する体制を整備し，先生方が子供たちとしっかりと向き合える環境を整えていくことが期待されている。

【話題提供の趣旨：松井匠】3．外部専門員(OT)実践報告

５年間の具体的な実践事例に基づき，アセスメント内容の紹介，及び児童生徒の経年的変容を具体的にお伝えする。

【話題提供の趣旨：肥後祥治】4．プログラムの開発

特別支援学校おける行動障害への対応に特化した OJT プログラムの開発とその有効性の研究を，学校の協力を得て進めてきた。プログラムは，ABA に基づく各回２時間，計５回から構成されたワークショップ形式のものであった。教員，子どもへの影響と可能性と課題について報告したい。

【指定討論の趣旨：渡部匡隆】

渡部氏には，話題提供やご自身の実践・研究から，我が国の学校と専門家の効果的な連携をより一層推進するための，検証や報告のあり方を示して頂く予定である。

(SAITO Ukai, HIGO Shoji, WATANABE Satoru, YOSHIDA Mariko, TANNO Tetsuya, MATSUI Takumi, WATANABE Masataka)